



人間は、なぜ、考える力をもっているの

人間が考える力をもっているのは、脳が発達しているから

何かを感じたり考えたりするのは、大脳のはたらきです。

人間が考える力をもっているのは、この大脳が、ほかの動物に比べ、発達しているから
です。

大脳の表面から、3ミリメートルくらいまでのところを、「大脳皮質」といい、外側の部分を「新皮質」、内側の部分を「古皮質」といっています。

このうち、何かを考えたり、ものごとを理解するといった、人間ならではの仕事を
もっているのは「新皮質」で、「古皮質」は、いろいろな感情を引き起こしたり、本能を
はたらかせたり、特別な記憶をしまっておく場所と、いられています。

人間とほかの動物の脳のちがいは

「大脳皮質」のうち、「古皮質」のはたらきは、人間もほかの動物も、共通しています。

動物も、いたずらをされればおこりますし、こわいときにはにげます。

人間の場合、ほかの動物よりも、「新皮質」が発達しているため、考える力がすぐれて
いるのです。（監修・保志 宏）

